

■ 連盟大会規定

I. 競技・運営に関する連盟取決め事項

1. 主将主務会議が行われた際に、会議で説明された事項及び要項によって決められた事項はチーム全員に周知させること。
2. 1度登録した選手の背番号についての変更は認めない。
3. 開会式を行うとき
 - (1) 選手全員がユニホーム着用で参加すること。参加しない選手・チームは原則として棄権とみなす。
 - (2) 開会式は、主将を先頭に前方から背の高い順で整列すること。
4. 当該試合の両チームは、開始予定時刻の1時間前までに会場入りし、大会本部（本部委員）に通知すること。
5. 1部リーグは6チーム、2部リーグはその他加盟チームとする。
6. 1部リーグ6チームは、2試合制とし、順位は勝率により決定する。勝率で並んだ場合は、従来通りとする。
7. 1部リーグ優勝チームは、全日本大学選手権大会に、準優勝チームは清瀬杯に出場とする。
8. 1部リーグは6位と2部リーグの1位は1試合の入れ替え戦を行い、敗戦チームは2部降格となる。
9. 2部リーグは1試合制とし、順位は勝率により決定する。勝率で並んだ場合は従来通りとし、2部リーグ1位は、1部リーグ6位と入れ替え戦1試合を行い勝利チームは残留となる。
10. 秋季リーグ戦は、1部リーグ6チーム、2部リーグ7チームとし、1部2部ともに1試合制とする。順位は勝率により決定とする。1部リーグの6位と2部リーグの1位は1試合の入れ替え戦を行い、敗戦チームは2部降格となる。
11. 順位の決定
 - (1) 春季リーグ戦
勝率で並んだ場合は、
 - ① 1位と2位が同率となった場合は、1試合の決定戦を行い、順位を決定する。
 - ② 1位を含む複数が同率となった場合は、トーナメント戦を行い決定する。その際の組み合わせは、直近のリーグ戦の順位に準ずる。

- ③ 2位と3位が同率となった場合は、上記①に準じ順位を決定する。
- ④ 2位を含む複数が同率となった場合は、上記②に準じ順位を決定する。
- ⑤ 3位～6位（二部は7位まで）の間で同率となった場合は、直近のリーグ戦で上位にあったチームが当該リーグ戦の上位の順位となる。

(2) 秋季リーグ戦

勝率で並んだ場合の順位の設定は、春季リーグ戦に準ずる。

12. 当番校のボールボーイは全試合ヘルメットを着用する事
13. 第1試合は開始予定時刻の40分前に、第2試合以降は前の試合の7回が終了した時点で主将がメンバー表5通を大会本部に提出すること。
14. 試合中にベンチに入ることが許される者は、
 - (1) 登録されてユニホーム着用の監督1名、コーチ2名以内、選手25名以内。
 - (2) 登録された部長（チーム責任者）1名、マネージャー（スコアラー）2名。
 - (3) (1)・(2)以外の者は、試合前のシートノック中も競技場内に入ってはならない。
15. 第1試合はメンバー表を提出次第、第2試合以降は前試合が終了した5分後に、両チームそれぞれ7分以内で後攻チームからシートノックを行う。
16. 第2試合以降が開始予定時刻より遅れている場合は、シートノックを短縮したり、行わないことがある。
17. 第2試合以降は前試合が終了して20分を経過すれば、開始予定時刻前であっても、試合を開始することがある。
18. 試合をスピードアップするため
 - (1) 攻守交代は駆け足で行うこと。
 - (2) 投手と捕手
 - ① 捕手からサインを見る投手は、必ず投手板に触れていること。
 - ② 投球を受けた捕手は、速やかに投手へ返球すること。
 - ③ 返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球位置につくこと。
 - (3) 打者
 - ① 速やかにバッターボックスに入り打撃姿勢をとること。
 - ② 投手が投球動作に入ったら、みだりにバッターボックスを外さないこと。
 - ③ ベンチやコーチボックスからのサインもバッターボックス内で見ること。

と。

- ④ 次打者は、必ずネクストバッターサークルに入り、待つこと。プレイ中に投手の投球に合わせてスイングをすることは禁止する。

- (4) 内野手間の転送球は、1回以内とし、速やかに投手へ返球すること。ただし、試合進行が遅れている場合は認めないことがある。

- 19. 試合球の交換は、審判員が認めた時のみに行う。
- 20. 試合中にプレーヤーが交代する場合は、監督、コーチまたは主将が球審に通告し、同時に打撃順を明示すること。
- 21. 試合中のグラウンド内ブルペンでの投手の投球練習は2ペアまでを原則とする。但し、開催球場の規模により、連盟の判断で1ペアに減らす処置を行うことがある。また、試合中ベンチ前でのキャッチボール・素振りは禁止とする。2アウト後、ベンチ前での攻撃相手の準備投球も禁止とする。
- 22. 投手は各回のはじめに登板する際、あるいは他の投手を救援する際には、マウンドで捕手を相手に準備投球をすることができる。その際投球数・時間の制限は設けない。
- 23. ブルペンでの投球練習の際、捕手は必ずフル装備（キャッチャー用メット、マスク、プロテクター、レガース）すること。
- 24. タイムの制限について
 - (1) タイムは、審判員がプレイを停止するために宣言するものであり、選手や監督からの要求があっても認めないことがある。
 - (2) 監督またはコーチおよび捕手または野手が、一試合にタイムをかけて投手の所へ行ける回数を、9イニングの試合にあっては4回以内とする。なお、延長戦（特別継続試合も含む）となった場合は、2イニングに1回行くことができる。
 - (3) 攻撃側のタイムは9イニングの試合にあっては3回以内とする。なお、延長戦（特別継続試合も含む）となった場合は、2イニングに1回とする。
 - (4) 試合中、スパイクの紐を結ぶなおすためのタイムは原則として認めない。
 - (5) タイムは1分間を限度とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りではない。
 - (6) タイムの発効は、プレーヤーが要求した時点ではなく、審判がこれを認め宣言したときからである。

25. 捕手はーフスイングに球審がストライクと宣言しなかった時に限り、捕手が塁審のアドバイスを受けるように要請してもよい。

26. 試合中の禁止事項

- (1) 投手が打者を狙って投球すること。
- (2) 走者が足を高くあげてスライディングすること。
- (3) 野手がからタッチなどして走塁を妨げること。
- (4) ホームランなど得点したプレーヤーのため、ベンチコーチが本塁で迎えたり、選手がベンチを離れること。
- (5) 紛争などの際、相手プレーヤーや審判員に手を出すこと。
- (6) 相手プレーヤーや審判員に対する聞き苦しい野次及び学生野球にふさわしくない行為。

27. 雨天時等

- (1) 球場管理人・審判団・大会本部関係者が協議の上、競技場使用の適否を決定する。
- (2) 日程を考慮し、雨天であっても強行することがあり、天候とグラウンド状態によって開始予定時刻を遅らせることもあるので、独自で判断せず、必ず学生理事の指示に従うこと。

28. 大会参加チームは、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 各試合の両チームはファウルボールの回収やグラウンド周辺の整理整頓などの作業に加え、加盟団体のグラウンドを借用する際など、グラウンド整備が必要な場合は次の通り協力すること。
 - ① 試合前のシートロック後には、グラウンドを整備し、担当者の指示によって必要なラインを引く。
 - ② 試合終了後には、グラウンドを整備のほか、ベンチ内及びグラウンド周辺のゴミを回収して整理整頓のこと。
- (2) 試合でボール係をする者は、原則として6球で試合が進行できるようにボールを管理する。

II. 競技に関する連盟特別規則

適用規則は基本的には最新版の「公認野球規則」とするが、特別規則としてこの規則が優先的に適用される。

1. コールドゲームによって正式試合になる回数を5回とし、次に該当する試合は、その時点で勝敗が決する。

- (1) 完了した均等回における両チームの総得点差があつて暗黒・降雨など天候状態または時間制限のために試合打ち切りが宣せられたとき。
- (2) 完了した均等回における両チームの総得点差が5回以降10点以上、7回以降7点以上となったとき。
2. 10回からタイブレーク制を導入し、決着がつくまで継続して行う。タイブレークは、無死一・二塁から開始し、打順は、前の回からの継続とする。
3. 試合において、DH（指名打者）制を採用できる。
4. 申告敬遠を採用できる。申告敬遠を宣言できるのは、監督・コーチ・主将とする。
5. 野球規則に基づいてのアピールが許される者は、監督・主将及び当該プレーヤーに限る。
6. 走者が負傷の治療を必要とする場合は、投手を除いた打順前位プレーヤーの臨時代走を認めて試合を進行する。
7. ベンチコーチは、特定される必要はなく、ベンチに入ることが許された者であれば認められる。

III. 用具・ユニホームに関する確認事項

1. 使用球は、全日本大学準硬式野球連盟が公認するナガセケンコー社製のH号ボール。
金属バットは、全日本大学準硬式野球連盟が公認した重量900g以上で製品安全協会のS・Gマーク付のもの。*メーカーはアシックス、エスエスケイ、ゼット、デサント、ローリングス、ミズノ、ルイスビルスラッガー・ディマリニとする。
2. ユニホーム着用が必要な監督・コーチ・選手はユニホーム・帽子・ストッキングが同色・同型・同意匠、スパイクが同色・同意匠、アンダーシャツが同色であること。
3. ユニホームの背中には、背番号以外のものを付けてはならない。
背番号は1番～50番までを使用し、このうち監督が30番、コーチが26番～29番、主将が10番とする。
4. 打者あるいは走者であるプレーヤーは、野球用両耳フラップ付ヘルメットを着用しなければならない。
5. 素振り用バット（マスコットバット）に鉄パイプの代用を禁止する。

6. 投手は、利き腕の手首にリストバンド（サポーターなど）を使用してはならない。
7. ベンチ内で使用するメガホンは両チームそれぞれ1個のみとする。使用用途は自チームへの連絡のみ限られ、相手チームの野次などに使用することは禁止する。
8. 大会本部は、使用する用具の安全性を確かめるため、用具点検を行う。
9. サングラスをかけずに不必要に帽子のつばにつけておくことを禁止する。
10. 人工的茶髪、ひげ、パーマネント、長髪、装身具（ネックレス、ブレスレット、ピアス）ロングパンツで試合に臨むことを禁止する。
11. グラウンド内外でユニホーム姿での喫煙を禁止する。
12. 色付きマニキュアシールを貼って試合に出ることを禁止する。